

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100324		
法人名	特定非営利活動法人 しあわせサービス		
事業所名	グループホームゆめの丘		
所在地	島根県松江市美保関町北浦624-1		
自己評価作成日	令和3年7月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&Ji_gyosyoCd=3290100324-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和3年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた立地条件を生かし、年間行事等で季節感や生活感を感じて頂けるよう支援しています。(春の桜の花見、夏場の地元での海開き参加、施設での地域の方を招いたそうめん流し、秋の芋煮会や、地域の保育園児を招いた敬老会、年末の蕎麦打ち、しめ縄作り)
また、個々の興味・好み・体力により、玄関前でのお茶会、畑仕事、廊下でのウォーキング、調理の下ごしらえ・盛り付け、カラオケなど生活に楽しみと自信を感じながら過ごしていただいています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員全員で理念を理解し、特に利用者の尊厳を大切にするという考えのもと、接遇、身体拘束、虐待防止についての研修・ミーティングを実施し、一人ひとりの利用者の思いにより添えるよう努めておられます。
また、豊かな自然環境の中、利用者が四季の移り変わりを実感できるよう、春は花見、夏は地元の海開きや地域の方々とのそうめん流し、秋には芋煮会や地域の保育園児との敬老会、クリスマス会や年末のソバ打ち等たくさん行事が開催されています。コロナ禍の中普段どうりに行かない部分もありますが出来る限り実施されています。
日々の暮らしの中にもそれぞれが興味・関心が持てるよう、カラオケや調理のお手伝い、洗濯物を畳んだり、戸外でのお茶会、畑仕事や廊下を使ってのウォーキング等、楽しみながら自然に体力向上にも繋がる仕組みが用意されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、毎朝朝礼時に唱和し、職員全体で共有実践につなげている。特に尊厳については、虐待防止への研修・ミーティングで話し合いを行っている。	理念の共通理解、実践に向けて毎日職員間で確認されています。利用者の尊厳を大切にしている取り組みとして虐待防止の研修やミーティングが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、西保育所園児との交流、そうめん流しでの地区の小学生・保護者参加、美保関中学校の福祉体験の受け入れ等地域の方との交流を図っている。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、例年のように地域行事への参加が難しくなっているが、可能な限り継続出来る様心掛けています。	現在コロナ禍のために従来通りの地域とのつきあいが行ない難い場面もありますが、基本的に利用者の方と地域の方々との多様な触れ合いを大切に過ごせるように心掛けておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々を招いての交流事業に力を入れ、敬老会・そうめん流し・お茶会等、認知症への理解と交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一か月に一度開催し、利用者の現況、行事報告などを行い、委員の意見等を施設の運営やサービスに生かしている。新型コロナウイルスの影響により、今年度は書面にて開催した。利用者の現況・感染対策等を報告し、要望・意見等を伺い、サービスの向上に生かす様努めている。	2ヶ月に1度開催されていますが、直近は新型コロナウイルス感染予防のため書面での開催となっています。利用状況、ホームの行事報告等を行い、委員の方に意見を伺いサービス向上に努めておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を密にとり、情報共有を行い、協力関係を築くよう努めている。	現在はコロナ対策についての連絡が中心になっていますが、市の地域包括、介護保険課とは日々しっかりと連絡を取り合っておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、自由に出入り出来るようにしている。施設内・外部研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し検討されています。より正しい知識を習得する為、研修も行って、実践されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修において学び、虐待が見過ごされる事がないよう注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修において学び必要に応じて関係者と話し合い、相談に応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者様・家族様に十分に説明を行い、理解・納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議の意見・面会の際の要望等、運営に反映させている。介護計画更新時にも、改めて家族等の意見を聞くようにしている。	家族が面会に来られた際には意見を伺うようにされていますが、コロナ禍で中々面会も自由にできない状況が続いていますので、日々の様子が分かるカラー写真付のお便りや細目な電話連絡を行い、様子を伝えながら意見を伺うようにしております。また、ケアプランの更新時にも意見、要望等を聞いておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや個別の面談で集めた意見・要望を運営に反映させている。	毎日ユニットごとのミーティングを行い、利用者の方の状況や対応について話し合われます。また、職員の個別面談も行われています。面談の際には要望等も聞かれ、個々の職員の質の向上につながるよう努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の引き上げ、時間外労働の抑制等を図り、職場環境の改善に努めている。それぞれの家庭環境も考慮し、週休3日制を導入、定着率を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常の業務を通じての介護技術の向上や法人内外の研修に参加している。パート職員は正社員への登用制度を設けている。また、資格取得について積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し、職員同士が情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	丁寧に傾聴し、本人の希望を出来るだけ叶えられるように努めている。言いやすい関係になるよう特に初期は気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧に説明し、家族の希望を叶えられるよう努めている。特に初期には関係性に気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見極め、それを踏まえて家族の要望を聞き、適切な支援となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームで共に生活をするという意識を忘れず、日常生活の中で暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にゆめゆめ通信を送付し利用者様の様子を伝えたり、面会の際等ご本人の現況をお伝えし、共に支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により、馴染みの人との面会、馴染みの場所への外出は控えさせて頂いているが、ガラス越しの面会等、関係が途切れない様支援している。	現在はコロナ禍という事もあり、馴染みの方と会う事や場所に行く事も難しい状況にありますが、玄関でのガラス越しの面会や家族との病院受診の帰りに実家を見に行かれる利用者の方もおられます。	今の状況が落ち着けば、日常が戻ると思いますが、これからも住み慣れた地域に住んでいるという自覚が持てるようなお話ができるよう工夫を願います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されている方がいないよう日々の生活を通じて、利用者様の動向に常に気を配り、利用者様同士の良好な関りとなるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて経過観察し支援している。相談があった場合には誠意をもって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族からの情報を得よう努めている。	利用者の方が職員に声を掛けやすい雰囲気作りを大切にし、日々の関わりの中から、思いや意向の把握に努められています。困難な方の場合には、生活歴や家族の方より情報を得ながら検討しております。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のサービス内容・生活歴等について、ご本人様、ご家族様、事業所から情報を収集し、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で様子、状態等を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・職員の意見を踏まえ、ご本人の意思を尊重し、その人らしい生活を送っていただくよう計画を作成している。	本人、家族の要望や担当職員の意見等を反映させ、利用者本位の計画が計画作成担当者によって作成されています。モニタリングは毎月行われ、6ヶ月に1回評価・見直しを実施されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録内容を職員間で情報共有し、話し合いながら日常に介護や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診・救急搬送時の付き添い等、本人や家族の状況・要望に応じ、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流事業、外出支援を通じて、地域資源を把握し、日々の暮らしに役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、事業所と連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。	大部分の利用者の方が、協力医である地元の医師をかかりつけ医とされており、定期の往診、夜間の急変時にも対応して頂いております。総合病院をかかりつけ医にされている利用者の方は家族と一緒に定期受診されています。歯科も協力医があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、情報を常に把握し、早期の異常発見に努め、看護師に相談・指示を仰ぎ、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関へ情報を提供し、安心して治療を受けられるよう支援している。病院関係者とも連絡を密にし、よりよいケアにつながるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から重度化について家族様と話し合い、今後の方針を一緒に考えている。	利用開始時に重度化の際の方針について説明され、実際に重度化が進んできた段階で、家族、医師、ホームと共に話し合い、今後の方針を決めておられます。重度化に対しての対応研修も行っておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署の指導の下、救急救命講習を受講し、緊急時の対応について学び実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害・地震等の発生時の避難訓練を通じて、職員の危機管理意識の向上を図っている。	火災・水害・地震等に備え、年2回避難訓練が実施されています。災害等の備蓄も行われています。	自然災害・感染症発生時に於いても、事業継続させる為の計画(BCP)の作成が求められていますので、検討をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。施設内で接遇の研修も行っている。	利用者の方を敬い、人格を尊重するように心掛けておられ、日常的な丁寧な言葉掛けや利用者のプライバシー保護にも気を付けたケアが行なわれています。虐待・身体拘束につながらないよう定期的に接遇研修が行なわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、ご本人の希望や思いを聞き自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重し、その人らしい生活が送れる様に希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時等、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。毛染めやお化粧等、ご本人の希望に添うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・テーブル拭きやお盆拭き等、一人ひとりの力を生かしながら、職員と共に準備・片付けを行い、楽しみながら食事が出来るよう配慮している。	食事はすべてホームで手作りされており、ホームの畑で収穫した野菜も献立に活かされています。準備や片付け等出来る事は利用者の方にもお手伝い頂かれます。また、ひな祭り・クリスマス会・誕生日会等、季節に応じた食事や行事食も用意されています。、おやつ作りも一緒に行い、楽しい雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は、管理栄養士により管理、バランスのとれた食事を心掛けている。食事量・水分量に関しては、日々チェックにて把握し、個々の必要摂取量を確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助を行い、一人ひとりの状態に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中・夜間ともその方に合った声掛けやトイレ案内等、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握する為、チェック表も付けながら、個々に合ったリズムができるよう努め、介助が必要な方もトイレに行ける方には、トイレでの排泄が継続できるよう自立支援に向けた支援が行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれる食材の利用、体操・散歩等身体を動かす機会を作り、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴していただけるよう支援している。又、入浴拒否がある方に対しては、時間をずらしたり、日にちを変更する等し、気持ち良く入浴して頂けるよう支援している。	利用者の希望に沿いながら入浴できるよう心掛けておられます。入浴中のフラつき等の心配がある方には2人体制で介助をしたり、シャワー浴での対応もしています。同性介助の希望があれば対応されており、機械浴の用意もあります。入浴拒否のある方には家族にも協力をして頂いたり、言葉掛けを工夫等が行なわれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに応じて休んで頂いている。日中はなるべくレクリエーション・体操等で身体を動かす機会を作り、夜間良眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個人ファイルに閉じ情報を共有し服薬の支援を行っている。症状の観察にも努め変化等あれば主治医へ報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・片付け、洗濯物の整理等、それぞれに日常の生活の中で役割を持ってもらい、張り合いのある日々を支援している。また、季節の行事やレクリエーションを取り入れ、気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、外出は控えさせて頂いているが、天気の良い日には施設周辺の散歩、畑仕事や収穫、玄関先でのお茶会等日常的に戸外へ出掛けるよう支援している。	現在はコロナ禍のため日常的な外出は控えておられます。従来のように気軽に買物に出掛けることはできませんが、感染対策を行いながら、できる範囲で外出されています。外気を感じられるように近くの桜を見に行ったり、散歩、外でのお茶会等工夫をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物の際はご自分で支払いが出来るよう支援している。 少額の個人金をご自分で管理している利用者様もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルスの影響により、面会を控えさせて頂いている中、ご家族様などに自ら電話されたり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間・居室は清潔を保ち、季節に応じた花や飾りつけ等生活感や季節感を取り入れ、またホールには加湿空気清浄機を置き、感染対策にも努め、心地よいと思っ頂けるような空間づくりに努めている。	共有の空間には季節を感じてもらえるような落ち着いた色のある利用者の年代に相応しい花や物が置かれています。また、室温、加湿、空気清浄にも気を付け、感染症対策も行い、快適で清潔な空間で過ごせるよう配慮されています。共有スペースでの食事の際の席の組み合わせにも配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・談話室で利用者様同士で過ごし、親しい方同士では居室へ相互訪問もされている。又、玄関先や庭にベンチを置き、思い思いにくつろげる環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や、好みの物を持参して頂き、ご本人が落ち着いて過ごされるよう支援している。	すべての居室にトイレも完備されており、起き上がりの際楽なベットを全員使われています。安心安全で、利用者が落ち着いて居心地のよい居室になるよう支援しておられます。また、利用者本人の馴染みのある使い慣れたものを持ち込んで頂かれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋建てで、施設内部の手すりにつかまりながら自立歩行を行いやすくしている。居室のトイレは夜間の安全自立に役立つ。また、居室のドアに名前を表札にし、ご自分の部屋が分かりやすいようにしている。		